

16 財務会計の概念フレームワーク

17 会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正

18 金融商品会計

19 連結会計

20 持分法会計

21 包括利益の表示

22 関連当事者の開示

23 外貨換算会計

24 ストックオプション

25 固定資産の減損

26 棚卸資産の期末評価

27 工事契約

28 退職給付会計

29 資産除去債務

30 税効果会計

31 読み方、理解の仕方のポイント

32 事業分離等

33 キャッシュフロー計算書

34 四半期財務諸表

35 セグメント情報

36 1株当たり当期純利益

37 収益認識

29 資産除去債務

総論

会計処理

開示

☆☆★	★★★	固定資産の解体等に係る支出の取扱い(残存価額の決定に際して)について見解2つ(基準施行前の議論)
		解体等に係る支出を考慮する見解 ②P248 当該支出額を残存価額から控除→その分減価償却費総額を増やして費用処理
		解体等に係る支出を考慮しない見解 ②P248 当該支出額は引当金計上で利用期間にわたり(毎期少しずつ)費用処理
☆☆★	★★★	資産除去債務基準上で検討された、固定資産の除去サービスの取扱い方2つ
		引当金処理 ②P249 除去サービス費用配分〇、負債全額計上×、資産の回収すべき金額引上×
		資産負債の両建処理 ②P249 除去サービス費用配分〇、負債全額計上〇、資産の回収すべき金額引上〇
☆☆★	★★	資産除去債務の見償りの変更の調整方法 考え方3つ
		プロスペクティブ・アプローチ ②P253 見償り変更の影響を将来にわたり反映
		キャッチアップ・アプローチ ②P253 見償りの変更の影響を当期の損益として一時に処理
		レトロスペクティブ・アプローチ ②P253 見償りの変更の影響を遡及修正する

割引率の考え方について
まず、無リスクの割引率が信用リスクを反映した割引率が、考え方が2つあることを押さえる。
次に、現行制度上無リスクの割引率を使うこととされていることを押さえる。
そして、その理由が、無リスクの割引率を使うほうが**会計基準全体の体系と整合的だから**、と押さえる。
最後に、2つの考え方それぞれの論拠を軽く確認する。

まず、有形固定資産の帳簿価額に加える方法と別の資産として計上する方法、2つの考え方があると確認。
次に、現行制度上取得価額に加えるとされていることを押さえる。
そして、その理由が、この除去費用相当額が**独立した資産といえないから**、と押さえる。
(法律上の権利でなく、財産価値もなく、独立して収益獲得に貢献しない)
最後に、2つの考え方それぞれの論拠を軽く確認する。

時の経過による資産除去債務の調整額について、営業外費用と営業費用の2つの考え方があることを確認。
現行制度上、営業費用とされている理由として、営業費用の論拠を押さえる。
最後に、営業外費用とする場合の論拠を軽く確認する。

履行差額について、特別損益(または営業外損益)と営業費用の2つの考え方があることを確認。
現行制度上、営業費用とされている理由として、営業費用の論拠を押さえる。
最後に、特別損益(営業外損益)とする場合の論拠を軽く確認する。

概念セット数 3

論文式試験対策を意識した覚え方
(全ての論点に言えるのですが…)

相対する複数の会計処理について、
①複数の処理を押さえる
②制度上採用された理由が直接書いてあればその理由を押さえたうえで、
③各々の論拠は軽く押さえる。

②'もし採用理由が直接書いてないなら、
③'採用された処理の論拠を採用理由として押さえる。